

伊豆市議会 平成29年度 第2委員会行政視察報告書

木村建一

日程 平成29年10月10日～10月12日

【I】 神戸市 : 幼保連携型認定こども園、児童発達支援「心の森」

目的: こども園と児童発達支援施設の施設一体型の運営について

文教ガーデンシティ構想にあった「子ども園（児童発達支援施設の併設）」計画は否決したが、こども園そのものを不必要としたわけではない。（構想をどう判断したのか、議会の場ですでに表明しているのここでは省略する。）

障がい児だって、当たり前存在

「0歳から5歳児の子どもたちにとって、健常児も障がい児も自分と違う存在にかかわることができる。」健常者・障がい者と区別するのではなく、幼いころから一緒に学んでほしいという想い。そして、人としての尊厳について、子供の頃から考える時間を持つことの大切さを身につけることを基本理念としている園だなど思いました。

基本理念

①**人としての素地を培う** 「子どもの最善の利益」を考慮し、いのちあるすべてのものを大切にすることができる人としての素地を培う。

『「地域のなかで育ちたい」「同年齢の子どもたちと過ごしたい」という保護者の思いから、こども園との複合型である心の森を選ばれる方が多い』（園の資料より）

発達支援施設として特別な施設を設けているわけではない。共生社会の創造の施設として、健常児主体の保育から障がい児支援を組み込んだ地域の総合的な保育施設として平成26年4月に開園。

②**社会生活できる施設まで見通す** 6歳児の子どもを持つ保護者、とりわけ障害を持つ家庭にとって4月からの放課後の時間帯の子どもをどうするのかという課題がある。そうであるなら、就学前と就学後の事業と保育の複合をやれ

ば継続支援ができるかと判断で開園したということです。しかし、その課題をこれで終わりにしないことに感動します。卒業し社会人としてどう生きるか、障がい者のための働く場、「ベーカリー」の製造販売所を開設していました。

③発達障害支援の範囲 どんな支援施設とし、どのような専門職を必要としているのか、については医療行為を必要とする幼児までは受け入れていないとのことでした。保育・幼稚園資格者の範囲で受け入れています。

「こども園」 子どもを見る目の素晴らしさ

「これっていいな」と感じた園の特徴は…

住宅街なのに、こども園と自然が同居している

園の裏に回ると、小さいけれどそこに森がある。

まったく想像できなかった。斜面という地形を利用して3階建ての施設だが、これまた斜面を利用した森が出現。そこには起伏のある庭園、木があり落ち葉が、夏も木陰にそよぐ風が引いて夏の暑さを和らげてくれるだろうなど。

自分に必要な分だけ、食材を盛る

写真の右側に四角い容器が写っていますが、バイキング形式で子ども自身がおはん、おかずを食器に盛るそうです。食べる量が違うから、判断する力をつけることへの取組みの一つだそうです。



ホームページ

「幼保連携型認定こども園 心の森」より

〇〇組さんの部屋はない＝くつろげる場

一つの部屋で、食事、睡眠、遊びをするということは、準備・行い・後かた付けという行為が必要になります。集団の生活というだけで、遅く食事をするとどうしてもせかせてしまいます。結果、保育者は一斉行動を幼児たちに求めてしまいます。

それぞれ生活リズムが違う乳幼児期に一律の基準を求める必要はない。一部屋をロッカーなどの家具で間仕切りをして、食事の場所、遊ぶ場所、昼寝の場所のコーナーを設けたそうです。『子どもたちにとって安心できる場、くつろげる場』に変身！

保育者にも、心にゆとりを持った雰囲気の中で子どもたちの成長を見守っているのではないだろうか。

《ま と め》

保護者の求める発達 支援施設に新設を

「保護者や幼児が、どんな支援を求めているのか」きちんとつかんだうえでどんな施設が必要だと思います。仮に、医療行為を必要とする乳幼児であるなら、それに応えられる専門職の配置が必要というのが、私の視察の結論です。

レストラン? と見間違えるようなこども園



ホームページ「幼保連携型認定こども園 心の森」より

だれも排除されない社会目指して

1996年(平成8年)、ハンセン病患者の強制隔離を定めた「らい予防法」が廃止されるまで、日本に差別の法律があったことを知りました。

この事実を知った時、2016年(平成28年)相模原障害者施設殺傷事件は、なぜ、あんな残虐なことをするのだろうと」他人事のように思っていたが、ハンセン病という差別の事実が、ほんの少し前まで現存していたことは知りませんでした、差別を自らの問題としてとらえなければなりません。

それとは違う物差しを当てはめる社会「インクルーシブな社会」(誰も排除されない社会)を、伊豆市は率先する自治体へ!

自己責任論が進む日本社会。使えるか、使えないか、儲かるか、儲からないか、成功するか、失敗するかでしか思考しない。

障害者だけでなく、老人など、生産性のないとされる人間を区分して「弱者」と決めつけた日本の歴史。ナチスドイツによる障害者の大量虐殺という非人間的な行為。さらに、それがホロコーストの予行演習として行われていたという歴史からも、広く深くとらえる大切さを学ぶと同時に、乳幼児、発達障害児と共に生活している保護者の願いにそう施設の早期建設を!

【Ⅱ】 京都市 : 東山泉小中学校

目的:施設分離型小中一貫校の運営

小学校と中学校が別校舎でも学校運営は可能!?

小学一年生から中学校の9年間を連続して見通した教育が、校舎を分離して可能なのか。その距離、直線にして750mという疑問を持ちながら視察に臨みました。

東山泉小中学校は、小学1年生から5年生までを西校舎に、小学6年生から中学3年生までを東校舎で学校生活をしています。(前期・第1ステージを1年生から5年生。後期・第2ステージを6年生から9年生という5-4制) 基本的には西校舎と東校舎別々の学校生活を送り、運動会など大きな行事で全校の児童・生徒が一堂に集まるとのことでした。

教師が9年間という一貫教育ととらえる

英語の教師が西校舎に出かけて行って、授業を教えるなど教師が校舎間を移動する。しかし、東校舎から西校舎に出かける。すなはち、中学校教師が小学校に出かける頻度が高いと校長先生が説明。それは、「いずれは東校舎に来る子どもたちだから」と話しました。なるほど、多忙な教師だが熱心な教師が存在するのだと、うれしく思いました。

中1ギャップを乗り越える

開校時の6年生が、今は9年生だが不登校2名、8年生の不登校1名、7年生、6年生はゼロとのこと。

何が子どもたちにとってうまくいかないのか。どこで違和感を感じてるのか、説明がありました。

①教科担任制

6年生の学年主任は、中学校籍の教師。国語、算数、社会は担任の教師、それ以外の教科は中学校に教師が担当。ちなみに、第1ステージの児童は、音楽、家庭、理科は中学校籍の教師が東学舎から西学舎に移動します。

②教師の丁寧さ

小学校と中学校の教師は子どもたちへの接し方に違いがある。例えば、名前の〇〇さん、→〇〇と呼び捨てで子どもたちに違和感を感じる。同じルールを適用しました。

全体の学びが一方的な講義形式(一般的な中学校に授業風景)になるが、ひ

とり学び、二人学び、人の話を聞くこと、自分の意見をいうという授業スタイルを、総合学習だけに取り入れるのではなく、全体で行うようにしたということです。

③テスト

中学生になると突然、テスト週間が出現。子どもにとって、大きな環境の変化に遭遇することになります。6年生からいわゆる（中学生並みの）テスト・国語、算数、社会の3教科から予行演習を実施。学期末には、5教科、最後の予行演習には8教科プラス英語のテストを行っています。

さらには、教科ばらばらの縦横の問題用紙ではなく、一つの問題用紙システムにする気配りをしているとのことでした。

教師は多忙だが、やりがいあり！

東学舎と西学舎は約1キロ離れているが、移動手段は電動自転車。校舎内を視察しているとき「雨降りの時どうしているのか」たずねたが校長は「車の駐車場がないので、歩いています。先生は大変ですが、頑張っています。ほかのことも含めて多忙解消はしたいのですが、なかなかうまくいきません」苦勞していることを率直に話してくれました。

ある教師の頑張りを校長が話しました。「小学校のみの免許では、9年生が見られない。子どもの成長にかかわりたいと、中学校の免許を取得しました」。子どもに寄り添う頼もしい教師に、感動です。

東山泉小中学校における小中一貫の特徴

○運動会 幼児を卒園したばかりの新1年生から、9年生が一堂に会する運動会は、『人類の進化を見ることができる』とっていました。また、

右の写真は、視察時の資料ですが、「西学舎の児童と東学舎の生徒と一緒に玉ころがしの競技をしているが、競争に勝とうと思うなら、生徒が転がした方がいいが、決して手は出しません。児童を後から見守っていきます。」運動会という学校行事を通じて、相手を思いやる人として成長することを体験しているのだなと感心しました。



○中学生と小学6年生が、同じ校舎で過ごすことに保護者から「オオカミの群れに、仔羊を入れるのか」という心配の声が上がったが「9年生が6年生をいじめたらカッコ悪いという雰囲気」

「それから4年が経過して、当時の6年生が、いま9年生になっている。当時の6年生が受け止めた思いが、今生きている」と。

《ま と め》

こどもたちの今の課題とともに、やがて学校生活を送るであろう将来の子どもたちのことも考えたうえで、どんな教育（学校）を目指していくのかが大事

別々の校舎で、どうして9年間を見通した教育ができるのだろうか
と素朴な疑問を持ちながら視察しましたが、9年間、子どもたちが日常的にふれあう環境にあるかどうかではなく、教師が9年間をどうとらえるかが大切。

○「小学1年生と中学3年生を前にして、話をすることは困難ですね。どう話をすればいいのか悩みます」と話した校長。同じ内容の話でも、どの大人も話し方は違うはず、納得しました。

「日頃一緒にしているよりも、たまに全校生が集う方がいいのでは」とも話していました。

○伊豆市では、部活が課題となっていますが、東山泉小中学校は6年生から部活動は可能としています。

○多忙な教師は、学習指導とともに生徒指導が加わっているがとの質問に「授業がしっかりできていれば、生徒指導に時間に割かれて大変ということではないでしょう」とあっさり答えられた校長先生の言葉に脱帽。

【Ⅲ】 京都府舞鶴市

目的:地域医療の推進

舞鶴地域医療推進協議会設立の経過

舞鶴市他2市の中丹医療圏は、人口20万8000人、面積1242平方キロ。伊豆市が該当する駿東田方医療圏は、人口65万9000人、面積1278平方キロ。

舞鶴市は経営母体の違う4つの公的病院が急性期医療を担っていた。平成のはじめまで機能していたが、近隣の病院が整備・充実をしてきたため患者数が激減。

中丹地域医療再生計画の進捗等、本市地域医療の状況を踏まえ、より一層効率的な取り組みを進めるため、一般財団法人舞鶴地域医療連携機構を市地域医療課が事務局を持つ「舞鶴地域医療推進協議会」に改編。

舞鶴市だけを考えると、約9万人の人口の当市には、舞鶴医療センター、舞鶴共済病院、舞鶴赤十字病院、舞鶴赤十字病院がる。恵まれた医療環境だと思ったが、実情はそうでもない。市民病院の医師不足、他の病院も医師不足は例外ではない。地域医療崩壊の危機が迫る中、地域の実情に応じた再生のために協議会を設立。

医療と行政のかかわり

市は直接ではなく調整役としてかかわっている。

《ま と め》

舞鶴市から伊豆市は何から始めるべきか

現市長が舞鶴共済病院院長という経歴があるから、自らの職責を生かしながら地域医療の困難を解決するために尽力されたと思います。舞鶴市からの貴重な資料を読み返しましたが、舞鶴市から伊豆市は何から始めるべきなのか。

地域医療情報システム（日本医師会）には、医療介護需要予測指数が掲載されていますが、2015年を100とすると、以下の表のように予測しています。

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
医療	99	95	90	84	78
介護	104	112	112	106	99

伊豆市はどのようにするのか、医師会と地元の2病院の連携はどうなっている？行政の役割は？

「いまだかつて経験したことのない「人口減少」という課題に取り組むためには、地域が有する魅力、資源等のポテンシャルを高める基礎固めと、『選択と集中、分担と連携』により、京都府北部5市2町があたかも一つの30万人都市圏として、機能し、発展することが不可欠であるとの考えのもと、広域連携の充実・強化に取り組む。」という舞鶴市長の主張を考慮し、検討すべきだと思います。

中伊豆温泉病院の移転問題は、伊豆市の焦眉の課題です。伊豆市だけで解決すべきことなのか。病院がなくなれば、他の自治体の住民にも大きな影響を与えることは確実です。通院、入院だけに関心が向きがちですが、介護を必要とする住民の問題はきちんと把握する必要があります。さらには、財政支援も市民が理解、納得することが重要と考えます。